



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10  
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151  
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

# コロナと岐響

昨年二月頃から岐阜県でも猛威を振るい始めた新型コロナウイルス、変異を繰り返しません。新型コロナウイルスによりお亡くなりになられた方々には心よりご冥福をお祈りするとともに、闘病・療養中の皆さまにはお見舞い申し上げます。また、医療従事者の皆さまをはじめ社会を支えてくださっている皆さまには、心より感謝申し上げます。



▲令和2年5月岐響練習場のなんじゃもんじゃ

岐阜県交響楽団も昨年二月末から活動が止まり、三月に予定していた「ファミリーコンサート」が中止になりました。誰も来なくなった練習場：静けさに包まれ、今まで毎週八十人くらいが集まりワイワイと音楽作りをしていたのが遠い過去のように感じました。五月の連休、そんな中でも岐響練習場を建てていただいたとき一緒に植えたシンボルツリーの「なんじゃもんじゃ」の花は真っ白に輝いて、それはそれは見事でした。

その後、六月の定期演奏会も中止となり、団員は基礎練習に励む毎日でした。練習再開も見通せず時間が過ぎ過ぎていく時期でしたが、ご縁があつて八月に計画された「合唱トライアル」に岐響も少し関わることになりました。練習場を使つての練習となり「岐阜県交

響楽団練習場使用ガイドライン」を作成しました。このとき作成したおかげで、その後練習再開の見通しができた気がします。

九月頃になるとコロナが少し落ち着いて、岐響も時間や人数の制約の中、ガイドラインに従つて少しずつ練習を再開しました。十一月に定期演奏会を予定していて、ひよつとして演奏会ができるかも、と思つていました。しかし、演奏会場は感染拡大防止の制約が強く「ライブ配信」という選択肢もありましたが、「生の演奏」にこだわ

り、時間と空気をご来場の方々と共有したいという思いがありました。またそれ以上に、アマチュアで一番大切な「積み重ねの練習」がそれまでにできない状況であつたことから中止を決定しました

りませんでした。練習、演奏会が再開できたご報告をしました。そして三月の「ファミリーコンサート」、一年ぶりのコンサートは本当に感動的なものでした。

今回のコロナによって、今までとは全く違った生活になりました。まだ制約の中ではありますが、音楽ができること、みんなが集まってオーケストラができること、そして皆さまの前で演奏できること、本当に幸せなことだと思います。私たちにできることは精一杯良い演奏をすること。感謝を込めて向き合っていきたいと思ひます。

どうぞ今後とも岐阜県交響楽団を応援していただきませう、よろしくお願い申し上げます。

（「岐阜県交響楽団練習場使用ガイドライン」は岐響HPでご覧いただけます）

# 岐阜県交響楽団創立70周年に向けて 「ナナゼロプロジェクト」が始動します！

岐阜県交響楽団は1953年に創立され、1975年に社団法人化して以来、岐阜県の温かな応援のもとに活動を続けて参りました。そして2年後の2023年には創立70周年を迎えようとしています。

日本全国どこを探してもこれほど地元の皆様を支えていただき、何と自由のない演奏活動に打ち込める環境にある恵まれたアマチュアオーケストラは他にありません。これもひとえに地元の皆様からの温かな応援があつてこそと、団員一同日頃より感謝しております。

70周年という記念すべき年を迎えるために、より一層オーケストラのレベルアップを図り、胸を張って素晴らしい公演をお聴かせすることで、これまで70年にわたり応援くださった地元の皆様への感謝の気持ちを表したいと考えております。

「ナナゼロプロジェクト」を立ち上げるにあたって

プロジェクトチームリーダー

坂 淳子

平成10年にプロオーケストラですら持つことが難しい、専用の練習場が完成しました。

「この練習場は団員が心地よく、趣味を満足させるためにできたものではない。各自の音楽技術を向上させ、聴衆に感動を与えるオーケストラとなること、地域社会に貢献し、岐阜県の芸術文化のシンボリック的存在に発展することを目標に掲げる。」というお言葉を岡本理事長より頂戴しました。

さて、今の岐響にこの目標がはたせているでしょうか。

2年後には大きな周年行事が待っています。この70周年記念公演を大成功へと導くためにもこの2年間でどう過ごすかがとても大切だと考えました。

## ○音楽技術の向上

岐阜県交響楽団はアマチュアオーケストラといえども本場に忙しいオーケストラです。今の状況になる前は大変な時は月に3回の本番！などということもざらにあり、プロ顔負けの忙しさです。とはいえ練習できるのは週末土曜の3時間のみ。忙しいことはありがたいことではあるのですが、日頃本番をこなすことに気を取られ、きめ細やかな練習をすることが難しい現状がありました。その上、昨年から新型コロナウイルスの流行により練習自体ままならない日々が続いていることもあり、各自の練習に対するモチベーションを保つことが難しい状況にあります。これでは2年後の70周年記念公演に良い演奏など目指せるわけもありません。

音楽は「音を楽しむ」と書きます。音を楽しむってどういうことでしょうか。

指揮者は自身の内側にある理想の音楽を実現するために我々に多種多様な要求を出します。

その要求に応えることで一つの音楽を作り上げていきます。でも、一言で要求に応えるって言ってもこれはとても難しいことなのです。「うーん、仰ることはわかるんだけど、できないっ！」と涙を飲むこ

とも。これをクリアするにはやはり練習するしかないわけです。また、ひとりひとりの頭の中にも理想とする音楽が流れています。これも実際にやるのはとても難しい。それにはやっぱり薄紙を重ねるような日頃の地道な積み重ねしかないわけです。でも、それが実際にできたとき！音楽って足し算じゃなくて掛け算になるのです。写真のピントがバシッと合ったようなクリアな演奏や、素晴らしい音やプレイが飛び出したとき、それはもう倍々になってオケ全体にどんどん広がってゆくのです。そんな体験ができた時はもう幸せと感動の絶頂です。それが本当の意味で「音を楽しむ」音楽となり、そしてその感動は大きなうねりとなって必ず客席にも届くはずなのです。これを練習のモチベーションにし音楽技術の向上を図りたい、そう思いました。



## ○地域社会への貢献

岐阜県交響楽団は他に仕事を持つメンバーで構成されたアマチュアオーケストラです。とはいえ多くの市民オーケストラとは大きな違いがあります。公益社団法人として地域の文化振興に役立つという大切な役割を持ったオーケストラです。

その一つとして年間の活動の中にアウトリーチ公演といって県内の小中学校へ出向いてその学校の体育館などで演奏する、というものがありません。いわゆる生のオーケストラの出前コンサートですが、子どもたちのキラキラした瞳やまっすぐで清々しい歌声などに逆にこちらが感動をいただくこともしばしばです。

私事ですが、フルートとの出会いは中学校のブラスバンドでした。入学当時部活見学の際に先輩方が「宇宙戦艦ヤマト」のテーマを演奏し、それを聴いた私はまさに「私が本当にやりたいことはこれなんだ!」と、音楽と「出会っちゃった!」わけです。ワクワクドキドキしました。楽器を始めて長くても2年ほどの先輩方の大してうまくもなかったであろう(失礼!笑)演奏でも、あの鮮烈な出会いはいまだに忘れることができせん。ひよっとして岐響の演奏を聴いてそんな音楽に「出会っちゃった!」子どもたちがいてくれたらこんな

嬉しいことはありません。

とはいえ、それ以外にはお客様に私たちの演奏会に足を運んでいただく形の演奏会が多く、なかなか気軽に街で音楽に触れていただけるような機会を作れていないという現状があります。

練習場やホールを飛び出して、県民の皆様に気軽に音楽に触れていただける機会を積極的に作り、様々な年齢層の方に音楽の楽しさや素晴らしさに出会える場を作り使命を果たしたい、そう思っています。そして地域の皆様と音楽を通してコミュニケーションを取ることは、それは我々団員にとっても人生を豊かに過ごすことにつながると言えるでしょう。

## ○岐阜県の芸術文化のシンボリック存在となるために

そうした活動を通してさらに多くのかたに岐響を知っていただき、引き続き地域の皆様に愛され応援いただけるオーケストラにならなければいけません。県民の皆様に我が岐阜県にはこんなオーケストラがある!と胸を張って言っていただけのような芸術文化のシンボルとなるオーケストラにならなければと。それがあってこそ70周年の記念公演を開催する価値があると思います。

私たちは来る70周年に向けてこの3つの目標を達成するために具体的な手立てを考え、行動に移してゆきます。私たちは努力をします。私たちは感謝の気持ちを演奏で表します。どうか今後とも岐阜県交響楽団を温かく見守っていただけたら幸いです。

この5月よりプロジェクトチームが発足しました。

県民の皆様に喜んでいただけるような楽しいことを絶賛企画中です! 次号からは実際の企画内容をお知らせしていきます。

今後の岐阜県交響楽団にどうぞご期待ください!



▲ウィーン楽友協会黄金ホール

## 《これまでの周年事業》

- 1953年 岐阜交響楽団創立
- 1975年 社団法人化とともに岐阜県交響楽団と改称
- 1976年 交響詩「長良川」(團伊玖磨作曲) 誕生
- 1993年 創立40周年 交響曲「岐阜」(藤掛廣幸作曲) 誕生
- 1998年 創立45周年練習場完成
- 2003年 創立50周年 東京公演(サントリーホール)「夢の跡へ」(池辺晋二郎作曲) 誕生
- 2009年 創立55周年 ウィーン公演(ウィーン楽友協会ホール)
- 2011年 「公益社団法人」に移行
- 2013年 創立60周年 交響曲第2番「復活」(G・マーラー作曲) 記念演奏会 感謝公演
- 2018年 創立65周年 じゅうろくプロムナード コンサート出演(愛知県芸術劇場)

岐響団員が語る！楽器への思い・楽器との出会い

オーボエ編

「オーボエを吹いています」と言う  
 「え？大笛（おおぶえ）？ああ、大きい楽器ね。」と言われることもしばしば。他の楽器に比べると一般的な認知度の低さと戦ってきた楽器と、我々オーボエ奏者です。

ですが、認知度の低さとは裏腹にオーケストラでは最初にチューニングの音を出すなどとても重要な役割を果たしているのです。

まずはオーボエがどんな楽器なのかについてご紹介します。オーボエは木管楽器の一種で黒い木の本体に音階を表現する金属のキーが沢山ついた楽器です。見た目はクラリネットに似ていますが、決定的な違いは吹き口がクラリネットは1枚リードであるのに対し、オーボエは2枚リードいわゆるダブルリード楽器であることです。

オーボエの歴史は古く17世紀のころにフランスで誕生したと言われていますが、オーボエの原型となった葦笛はさらに古くそれ以前からあったと言われてます。

オーボエは木管楽器の中でも特に演奏が難しいと言われる楽器で、息のコントロールやキーがたくさんあるため速いパッセージの時のキーの押さえ、音程のコントロール、そして何より繊細なリードの扱いに苦勞する楽器で

す。しかし、それらを乗り越え生み出される音色は甘く、艶やかで聴く人を魅了する楽器なのです。

また、多くの作曲家がオーボエに重要なメロディーの役割をソロで与えています。今回の演奏会でもモーツァルト、ブラームスで多くの美しいメロディーをオーボエが演奏します。ぜひ、耳を澄ませて美しい音色（になるよう頑張ります）をお楽しみください。

家族とともに 浅野勝代

8年前のファミリコンサート後に撮って頂いた写真です。子供達もすっかり大きくなってしまい、さらに出演者の皆様がこのように揃って一緒に写真を撮って頂く機会もこの頃は叶わず、本当に貴重な1枚となりました。

上段真ん中は今日の演奏会でもお世話になる高谷先生。いつも優しく、でも音楽には厳しくさらに温かく、この写真より前もさらに今日まで支えて頂いています。

その右側には今や日本を代表する当時高校1年生、岐阜県出身のバイオリニスト辻彩奈さん、そしてファミリコンサートの司会を務められた透千保さん、左はソプラノの八田亜哉香さん、テノールの清水徹太郎

さんです。

12歳の長女はちょうどこの頃サイン集めに凝っていて、先生方からサインを頂き満面の笑みです。当時、娘の求めに対し、辻さんが「サインなんか書いたことない」と叫んでいたことが思い出されてきました。

今は沢山のサインを書いてらっしゃるはずですが、娘が持っているものは辻さんの貴重な第一号のサインかもしれません。7歳の長男の手にはゲームがあり、写真を撮るより早くゲームをやりたいがっている表情です。4歳の次男はこの頃カメラを向けられれば、反射的にピースサインをしていました。



8年の間に、長女は高校で吹奏楽でトロンボーンと出会い、成人となりました。2人の息子はジュニアオケでそれぞれバイオリンとチェロでお世話になるようになりました。

人共とづくに私の身長を越してしまっています。家族5人共音楽の楽しみを見つけてささげていただきました。しばらくこんな風景を忘れてしまいう日常となつてしまいました。演奏会後にまた楽しく一緒に笑い合える日常が迎えられることを願って、頑張っていきたいと思います。

オーボエとの別れの危機 平尾純子

岐響に入団してはや20年の月日が過ぎました。気づいたら人生の半分以上はオーボエと共にあります。（自分でも驚き！）

私のオーボエとの出会いは、中学生の時に見たタバコのCMで宮本文昭さんが演奏するオーボエを聴いた時に「なんて素敵で音色の楽器なの！」と感動したことです。当時吹奏楽部でクラリネットを演奏していたのですが、宮本さんのオーボエの音色がどうしても忘れられず、親に頼み込んで高校生の時にオーボエを買ってもらったのが人生の半分以上も共に過ごすことになるきっかけでした。（両親に感謝です。）

思わぬ長い付き合いとなったオーボエですが、これまで別れの危機が何度かありました。1度目の危機は高校生の時。買ってもらったものの、教わる人は周りにおらず、独学で演奏するのは非常に難しく、「こんなに難しい楽器なの…」と1年ほどですっかり部屋のオブジェとなつてし

まったのです。しかし、大学入学後にサークル勧誘でたまたま最初に声をかけてくれたのがオーケストラ部のオーボエパートの方で「一応オーボエ持っています。(吹けませんけど)」というとき絶滅の危機に瀕していたオーボエパートの先輩方が熱心に誘っていただき、オーケストラ部に入部、先生まで紹介していただき、ようやくそれなりにオーボエを吹くことができるようになったのです。(オブジェ危機回避)



▲ウィーン公演  
楽友協会ホールにて

しかし2度目の別れの危機もすぐに訪れます。大学進学のため上京していた東京から就職のために岐阜に戻ったのですが、周りにオーケストラ仲間もおらず、慣れない社会生活を送る中で、オーボエと疎遠になって2年の月日がたったのです。(存在すら忘れかける)そんな時、趣味でバイオリンを習っていた母が「教室の楽器屋さんが娘さん、オーボエやってるなら岐阜県交響楽団に行くと良いよ」と紹介してくれましたよ。」と言って帰ってきたのです。緊張しながら見学を訪れると、昨

年亡くなられた当時の事務局長、原さんが満面の笑みで、「よう来たねえ!」と迎えてくださったのです。その笑顔に緊張も解け、久々のオーケストラの響きに「ああ、やつぱりオケは良いなあ」と入団することにしました。(忘却の彼方回避)

岐響の居心地の良さにすっかりはまり、土日はオケ生活にどっぷりはまっていた私ですが、3度目の別れの影が近づきます。結婚、妊娠し、妊娠7か月まで演奏会に出演していましたが、さすがに休団することになりました。しかし、この時は自分からオーボエと別れるつもりはありません。絶対に復縁してやると心に近いながらしばしのお別れ、息子が生後6か月で復帰しました。(育休引退回避)

次にオーボエとの別れが訪れるのはおそらく体力と技術の限界を自分で感じたときでしょう。それまで体力の維持、技術の向上を目指しこれからは長くお付き合いしていきたいと思えます。

### オーボエと私

若山由美

これと言って深いエピソードも、広い知識もないので、Q&Aで失礼します。(内輪受けのエピソードをお許しください。)

Q…オーボエを始めたきっかけは?  
A…大学入学後、憧れのオーケストラに。フルート希望だったけれど、

オーボエの先輩がなぜか熱心に誘ってくださって。今は某市の教育長である先輩からはご実家生産の煎餅をあげる、当時音楽科のマドンナ?の某先輩からは大学前にあった食堂のジャワライスをおごつてあげる、獣医科の某先輩からは研究室で飼っているはつかねすみの赤ちゃんを見せながらあげるとい謎のお誘いを受けました。決め手は、大学のすぐ近くに在住、OBで名フィルのオーボエ奏者、レッスン代は500円、たまに夕ご飯付きという指導者の存在でした。さらに、大学の楽器を貸していただけるという、国公立大学受験のみ許されたあまり豊かではなかった私にはぴったりでした。

Q…そんなきっかけで?  
A…そんなきっかけでしたが、素晴らしい指導者と先輩と仲間に恵まれたこと、毎日新しい体験で努力が形になることが楽しく、4年間の大学生生活はオーボエ一色。仕事をするようになってからも、オーボエに救われたことが多々ありました。オーボエと出会わせてくださった人々と現在のオーボエの仲間には感謝です。もちろんオーボエにも。

Q…今までに使った楽器は?  
A…最初確かメーニツヒ。その後マリゴ。働いて初めて自分で買ったのがハワーズ。今はヨーゼフという日本の楽器です。都響のオーボエ奏者だった先生が、海外の展示会に持っ



▲左からピアニスト粥川愛さん、cla上田さん、私、高谷光信先生

ていく楽器10本の中から選んだ、先生曰く「自分の楽器よりいい」楽器です。ヨーゼフは(相性はありますが)日本人向きかなって思います。

Q…初めて吹いた曲は?

A…禿山の一夜の2番。2番ですが低音のDのPPPソロがあり、音が開き大きくなるので、絹のハンカチを詰めて吹くよう指導されました。

Q…岐響の演奏会で印象深いのは?  
A…ベートーベンピアノ協奏曲5番。木管某パートの2番がないことをチューニングの時コンマスに伝えようとしたが伝わらず、そのまま本番が始まってしまいました。

ピアノソロ⇕合奏⇓木管パートとなり、小松先生が木管の方を見るや否や大変驚いた顔をなさいました。すぐに何事もなかったように指揮をされたことです。

Q…最後に何かあれば。

A…オーボエは神経質って言われますが、岐響は「おおらか(大雑把?)」です。

コロナ禍において久々の開催となった2つの演奏会。  
 どのような思いでこの2つの演奏会を聴いていただけたのでしょうか。  
 ご来場の皆様から多くのコメントをいただきました、いくつかをご紹介します。

### 「コロナに負けるな！」コンサートアンケート (2021/1/17 長良川国際会議場)

こんな時でしか味わえない名曲の生演奏を聴くことができ、大変感激しています。演奏者の方々も大変な時期に負けず腕を磨いておられる様子。生活の心配もあるかもしれませんが、この岐阜の地に最高の音楽を守っておられ、本当にありがとうございます。頑張れ、岐響！！



こんな素晴らしい演奏会、嬉しい限りです。もう一回開いてください、来場の皆さんの喜ぶ声が聞こえます。神原先生も天国で拍手でしょう、コロナも退散したでしょう、指揮者の背中も喜んでいました。

コロナ禍で皆様の演奏に元気を頂きました。これから皆様の演奏で元気になる方が増えるよう多くの機会ですばらしい演奏をお願いします！！

集まってるの練習もできない中、大変だったことと思います。素敵な演奏をきかせてもらうことができ、やはり音楽っていいなああとあらためて思いました。たくさんの人が集まって音楽が楽しめる日が早く来るように。それまでまだまだたいへんと思いますが、がんばってください。ありがとうございました。

### ‘21岐響ファミリーコンサートアンケート (2021/3/21 長良川国際会議場)

優しい心のこもった案内ハガキをお送りいただき、背中を押していただけてこうして演奏会にすることができ、大変感謝しています。素敵な曲の数々をありがとうございました。一歩足を前に出せそうな勇気をいただきました。感無量です。  
 (一宮市、50代、女性)

岐阜県交響楽団の演奏会に訪れるのは今日が初めてで、どんな演奏が聴けるか楽しみでしたが、想像以上でした。生での演奏はやっぱり違いますね。一緒に来た祖父もとても楽しそうに聴いていて、とても嬉しかったです。  
 (岐阜市、20以下、男性)

まさしくファミリーコンサートですね。指揮者と司会者トークもさることながら、選曲もすばらしく、きっと楽器の音色に魅了されました。コンサートに関心をもち、音楽好きの子どもたちが増えることでしょうね。心豊かな子どもたち、そして生演奏を拝聴し免疫力も向上します。ありがとうございました。  
 (養老町、70代、女性)

地元の交響楽団として、県民あげて応援したい。コロナ禍の憂うつさを晴らしてもらいました。ありがとうございました。団員の皆さまの一層のご活躍を祈念します。  
 (岐阜市、70代、男性)